

青梅市文化財ニュース

第 77 号

平成 6 年 3 月 15 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

トウキョウサンショウウオ

サンショウウオというと、大型のオオサンショウウオを思い浮かべる人が多いが、これとは種類が違います。小型のサンショウウオで、イモリを一回り小さくした大きさ、色は薄茶色、腹は赤く無いので、イモリとは一見して区別がつけます。

1935 年、当時の西多摩郡多西村（現・秋川市）で最初に発見されたことから、トウキョウサンショウウオの名前が付いたのですが、現在では愛知県～福島県まで分布していることが分かっています。生息している地域によって変異があり、種分化に関する問題が今後の研究に残されている種です。

最初に発見された産地を基準産地と呼びますが、種の研究をするとき尺度として使われるのが基準産地個体群です。その意味で、秋川市、日の出町、青梅市にまたがる草花丘陵に生息する個体群は、基準産地個体群として学術的にも貴重な存在となっています。環境庁編「日本の絶滅の恐れのある野生生物」（レッドデータブック）では、そのために、開発によって生息地が減っている「東京都のトウキョウサンショウウオ個体群」を重視し、「絶滅のおそれのある地域個体群」として指定し保護の必要性を指摘しています。お隣りの日の出町では、1978 年に町の天然記念物に指定しています。

青梅市では、多摩川左岸の加治丘陵と、右岸の草花丘陵に生息しています。加治丘陵では数が少ないようで、私はまだ見たことがありません。草花丘陵では、長淵・友田の大荷田川流域が有数の生息地になっていて、尾根を越えて多摩川寄りにも生息地があります。秋川街道より西はまだよく調べられていません。一般的にトウキョウサンショウウオの生息域は標高 100～280m で、もうちょっと標高が高くなるとヒダサンショウウオ、更に高くなるとハコネサンショウウオと違った種類が生息しています。

トウキョウサンショウウオの親の個体は、雑木林の中でひっそりと生活していて、人目につくことはほとんど無いのですが、ちょうど今頃の季節になると夜産卵場所に集まってきます。どういう所が産卵場所かというと、山裾の水が溜まった場所や、休耕地の湿地のような止水域です。卵はバナナを小さくしたような曲玉状の 7 cm 程のゼリー状の卵のうに包まれています。ふ化すると、カエルと同じように幼体のうちは水中で過ごし、そのうち陸に上がって成体になり再び雑木林の中に姿を消してしまいます。観察には今が一番良い時期です。

(文責 久保田繁男)